

日本リハビリテーション 病院・施設協会誌

2022年11月発行
(年4回発行)第185号

2022年[秋]

Japan Association of Rehabilitation Hospital and Institution

■巻頭特集

リハビリテーション・ケア合同研究大会 苦小牧 2022

【基調講演】浜村 明徳

地域包括ケアを支える地域リハビリテーションの過去、現在、未来
地域共生社会の実現に向けて

【主催団体シンポジウム】

- ◆ 病気・障がいと仕事の両立支援
- ◆ 調査・検証委員会 調査活動報告

ZOOMIN 会員病院・施設

一般社団法人 是真会 長崎リハビリテーション病院



CONTENTS

2 特集

リハビリテーション・ケア 合同研究大会 苫小牧 2022 開催される!



大会長講演 橋本 洋一

基調講演1 浜村 明徳

主催団体シンポジウム2 病気・障がいと仕事の両立支援

主催団体シンポジウム4 調査・検証委員会 調査活動報告

主催団体シンポジウム8 ライフスタイルを支援する地域リハビリテーション
地域リハ塾生の実践報告2022

地域リハ塾ミーティング 次回リハ・ケア大会や今後の課題を提案

10 巻頭言

さあ、感染予防をして地域リハビリテーション!!
平田 好文



26 連載 地域リハ塾活動報告
ICT(情報通信技術)を使用した仲間づくり
地域リハ塾3ブロック

28 追悼 石川 誠先生を偲んで
太田利夫 岡本隆嗣 藤田正明 水間正澄 宮井一郎 斉藤秀之 深浦順一 中村春基

32 CURRENT TOPICS 厚労省関連ニュース

33 ZOOM IN 会員病院・施設
一般社団法人是真会
長崎リハビリテーション病院
(長崎県)



38 Information

さあ、感染予防をして 地域リハビリテーション!! 地域とのつながりをもう一度



平田 好文

日本リハビリテーション病院・施設協会 常務理事
医療法人堀尾会 熊本託麻台リハビリテーション病院 理事長

日本がコロナ禍に陥って2年半、地域リハ推進委員長として、もどかしいというか、何もできなかったという責任を感じています。何度も発出された緊急事態宣言で、これまで築き上げてきた地域の方々とのつながりは、そのたびに引き裂かれてきました。

2016年、熊本は震度7の地震に2回も見舞われたにも関わらず、むしろ地域の方々とのつながりは強くなりました。皆が寄り添って励まし合い、地域リハビリテーションも一気に進んだと実感していました。ところがコロナ禍においては、まったく逆のことが起こっています。なぜなのでしょう。

地域リハ推進委員会では、2021年11月24日～12月10日にアンケート調査を行い、全国で同じように地域とのつながりがうまくいっていないとの結果を報告しました。コロナがまん延するとコロナ差別が生じ、高齢者は閉じこもりがちになり、こうした生活不活発状態から、認知機能の低下や転倒骨折が起こった症例を頻繁に経験しています。

熊本託麻台リハビリテーション病院では、2020年9月からWEB方式で「感染防止対策教室」を開催し、これまでに4,569名の方々との新しいつながりをつくってきました。この教室では、感染

防止の基本的なこと、コロナ差別のこと、生活不活発にならないこと、災害が起きたときにも感染対策が必要なことの4つをお話ししてきました。これも新しい地域リハビリテーションではないでしょうか。

参加された方々からはいつも、「知らなかった」「役に立った」との声を聞きます。私たちは、もっと地域の方々、直接、双方向性の交流をしなければと感じています。

現在（2022年9月）、コロナは第7波の真っただなかで、多くの病院や介護施設はクラスターの対応に巻き込まれています。しかし、緊急事態宣言は発出されず、感染のリスクは高いままですが、地域とのつながりは可能となりました。

さあ、今こそ感染予防をして地域リハビリテーションを推進しましょう。これまで考えてきたいろいろな感染対策をしながら、地域の方々の理解を得、地域とのつながりをとり戻しましょう。地域リハビリテーションに携わる私たちは、いま、試されていると思います。2023年3月の研修会では“新しい地域とのつながり—これも地域リハ—”をテーマに話し合いたいと思っています。皆でアイデアを出し合いましょ。私たちは、これからも地域を守る一員でありたいものです。

※このページ以降の誌面をご覧ください。場合は、
当協会への入会が必要です。

ご入会のお手続きは下記へ



【入会について】

<https://www.rehakyoh.jp/join.html>